



JTSU-B第2回定期大会開催報告 その4

⑤ センター分会

成田空港線の輸送改善が行われたが丁寧な説明や準備がなく、当時運行が始まった。その際に組合からは乗り場の作業ダイヤについて考え会社に提言をしている。代休処理に対しては管理者による社員個々に対しての丁寧な説明がなかった。組合員に対しては分会長を通じて説明を求めたが説明があったが、組合員でない社員に対しては説明が無かった。当該社員は給料明細をもらってから管理者に直談判に行っていた。そんな様子を見ていると会社は社員を大切にしている気なんてない。今年は営業手当とベアの勝ち取りを求めているが出来なかった。ベアの基本的な闘いとして基本給をいかに上げるかが大切になっている。感染拡大の中、センター分会は命がけて現場に出て頑張っている。21春闘こそはベアを勝ち取るよう共に職場から闘っていききたい。

⑥ 八日市場分会

感染症と災害に向き合い、組合員を守る為にしっかりとした対策をとって行かなければならない。今回の様に会社が危機的収入減に陥り、自分達の働く場所「会社」が無くなる可能性も有る中で、組合員とその家族が路頭に迷う事にならない様、考え行動しなければならぬ。勿論、感染者も出さない為に出来ることはしていかなければならない。感染対策として出来ることは全て本社主導でお願いしたい。4月から国際医療福祉大学成田病院の輸送が始まり、乗務員が足りないため一般線の出面を削り、2出面増なのに3出面削り、もともと足りない乗務員の確保をした結果、既存路線のダイヤ改正の案内(時刻表)を出した途端に苦情が出始めた。近隣の高校からも部活をする子供の足がないので、どうにかしてくれと嘆願書も出ている。今回のダイヤ改正は公共交通機関としての責任を果たさず大失敗。一刻も早いダイヤ改正をと、9月に向けてダイヤ検討委員会を立ち上げたが、出面を増やさなければまともなダイヤは引けない。個人的には全ての路線が元通りになる迄には数年掛かるのでは?と聞いている。その中で業務量調整をしながら、各現場で少しでも収入を上げて行かないと会社の存亡に関わってくる事案。成田空港線は飛行機の発着で乗客が大きく変わる。臨時対応で進めた方が利便的にも良いのではないかと。調整で出来るものはやって貰って各現場で少しでも収入増になる努力をする事が急務だと思う。この先ここで働く組合員やその家族の為に、何が駄目で何が最善か、状況は目まぐるしく変わらぬと思うが臨機応変に柔軟な対応が出来る様に会社に投げ掛けて。

⑦ 水戸分会

コロナ禍で組合員との関わりが薄れてしまつた中で代表者選であったがJTSU-Bで勝ち取ることができた。組合掲示板については9日に求めて、今後は職場の会議室を借りての職場での活動をしていく。代表選を通じて労働者として会社にもが言える代表者を選ぶ大切さを学んだ。今後の36協定の闘いだが、職場実態を把握し、検証運動を強化して職場での締結に向け議論していく。

⑧ 棚倉分会

不当労働行為とも言える妨害があった中、協定協約締結出来たのは大きな成果。まずは第一組合を共に目指していきたい。コロナウィルス対策については未だ会社の認識は甘い。社友会代表の安全衛生委員会の議事録を確認したがこれと言った対策が提言されていない。本部と共にコロナウィルス対策を提言していかなくてはならない。棚倉の不当労働行為申し立ての申立人佐藤組合員は病气により現在休職中であるが、みんなの声や檄で元気を貰っているとのこと。今現在でも棚倉の職場ではパワハラがある。私も以前、社員代表からパワハラを受けて精神的な苦痛を受けた。傷はまだ癒えていない。あったことはなかったことには出来ない。共に闘ってほしい。